

2018年8月31日

多様な集団の共生実現のために果たしうる役割と可能性を探る

# 公開講演会「音楽から考える共生社会」

2018年11月2日(金) 日経ホール(東京)にて開催!

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、公開講演会「音楽から考える共生社会」を2018年11月2日(金)に日経ホール(東京都千代田区)において開催する運びとなりました。

世界各地で排他的な考えの台頭がみられる現代社会では、多様な集団の共生は最重要課題の一つであると考えられます。本講演会では、これまでの共生研究では軽視されてきた音楽に焦点を当て、共生実現のために果たしうる役割と可能性を探ります。

音楽は人間の感情に大きな影響を与えることが報告されてきました。しかし、その力が人々を分断するために利用されてきたことも事実です。

講演会では、音楽が共生の達成に寄与する枠組みや条件を、具体的な事例から探ります。

本講演は特別研究⑤マイノリティと多民族共存「パフォーミング・アーツと積極的共生」の一環として実施します。



## 講演1 「アリラン峠を越えていく—在日コリアンの音楽が伝えるもの」

寺田 吉孝 (国立民族学博物館 教授)

在日コリアンが演奏する多様な音楽は、娯楽として享受されるとともに、コミュニティの記憶や、マイノリティとして生きる個人の生活体験を表現する場となってきた。在日コリアン音楽家たちの活動を映像音響メディアで記録・共有するプロジェクトの内容を紹介しながら、音楽が共生の実現に寄与する可能性を探りたい。

## 講演2 「共創する音楽—多様な人たちの共生のかたち」

中村 美亜 (九州大学大学院芸術工学研究院 准教授)

近年、障害をもつ人と支援者のコラボレーションや、多様な背景をもつ子どもたちのアンサンブルなど、従来にはなかった共創的な音楽活動が盛んになっている。これらには、参加者たちが、瞬間瞬間における相互の関わりを通じて、対等に、未知の音楽を創造するという特徴がある。共創する音楽を通して、社会における共生について考えていきたい。

## プログラム

17:30	開場	
18:30	開会の挨拶	西島 広敦（日本経済新聞社大阪本社・編集局 局次長）
18:35	館長挨拶	吉田 憲司（国立民族学博物館 館長）
18:40	趣旨説明 及び 講演 1	寺田 吉孝「アリラン峠を越えていく—在日コリアンの音楽が伝えるもの」
19:15	講演 2	中村 美亜「共創する音楽—多様な人たちの共生のかたち」
19:50	休憩	
20:05	パネルディスカッション	寺田 吉孝 × 中村 美亜 司会:河合 洋尚
20:40	閉会の挨拶	

## 公開講演会とは

公開講演会は先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、毎年東京と大阪において実施しています。

## 開催概要

講演名	公開講演会「音楽から考える共生社会」
日時	2018年11月2日(金) 18:30～20:40(17:30開場)
会場	日経ホール（東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル3階）
講演 1	「アリラン峠を越えていく—在日コリアンの音楽が伝えるもの」 寺田 吉孝（国立民族学博物館 教授）
講演 2	「共創する音楽—多様な人たちの共生のかたち」 中村 美亜（九州大学大学院芸術工学研究院 准教授）
概要説明	寺田 吉孝（国立民族学博物館 教授）
総合司会	河合 洋尚（国立民族学博物館 准教授）
申込/参加費	要事前申込（先着順）/無料（参加証が必要）/手話通訳あり
申込方法	【申込フォームの場合】 <a href="http://www.minpaku.ac.jp/">http://www.minpaku.ac.jp/</a> 国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。 【往復はがきの場合】 ※申込締切日 10月26日(金) 消印有効 往信面に下記①から⑥と返信面に申込者の住所・氏名をご記入の上ご応募ください。 ①郵便番号 ②住所(返信用宛名面にも) ③年齢(任意) ④電話番号 ⑤参加者氏名・ふりがな(本人を含め5名まで) ⑥11月2日公開講演会 * 参加申込された方の個人情報は本講演会のみで使用いたします。 * 車椅子をご利用される方は、お席をご用意いたしますのでお申し込みの際に必ずご記載ください。
宛先	〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 国立民族学博物館 研究協力課 TEL 06-6878-8209/FAX 06-6878-8479/メールアドレス koenkai@idc.minpaku.ac.jp
主催	国立民族学博物館・日本経済新聞社



パンソリ唱者 安聖民

## 登壇者紹介



寺田 吉孝（国立民族学博物館 教授）

マイノリティ集団の音楽文化に関する映像番組の制作に関わりながら、音楽研究における映像音響メディアの可能性を検討している。制作番組に『怒—大阪浪速の太鼓集団』（2010年）、『アラン峠を越えていく—在日コリアンの音楽』（2018年）などがある。



中村 美亜（九州大学大学院芸術工学研究院 准教授）

芸術活動によるエンパワメントや社会変容の仕組みに関する研究、また、その知見を生かした文化政策の提案を行っている。ジェンダーやセクシュリティに関する著作も多い。著書に『音楽をひらく—アート・ケア・文化のトリロジー』（2013年、水声社）、編著に『ソーシャルアートラボ—地域と社会をひらく』（2018年、水曜社）など。



河合 洋尚（国立民族学博物館 准教授）

中国南部における文化的景観の創出について、人類学の視点から調査研究を行っている。近年は環太平洋の漢族も調査の対象としている。著書に『景観人類学の課題—中国広州における都市環境の表象と再生』（2013年、風響社）、論文に「中国広州市における『私伙局』ブームの一考察—本地人と客家人によるサウンドスケープの再生」（2008年、『民俗文化研究』9号）などがある。